

# 筋量増加のパートナー「テストフェン」<sup>®</sup>

## 注目の新素材が引き起こす パワーの秘密に迫る



Testofen<sup>®</sup> (テストフェン) はGencor Pacific社所有の登録商標です

テストフェンは、テストステロンによる筋肉の増強、パフォーマンスの促進を目的に開発され、スポーツサプリメント市場において最新のテストステロン促進素材の一つと考えられている。テストフェン(フェナグリーク種子抽出物)は、「バナケイア」(ギリシャ語で全てを癒す)という語源があり、今日では万能薬という意味で食されているハーブの一種だ。テストフェンの最大の特長は、規格化されたフェナグリーク配糖体などの100を超える天然物質が含まれていること。そのため、ボディビルダーやアスリートの筋肉のサイズ、テストステロンレベルと体組成に有益な効果が実証されている。

こだわりの原料から作られたテストフェン

テストフェンは、フェナグリークまたはコロハと呼ばれるマメ科の植物で、古くからインドで食用や薬用に用いられていた。そのエリアの地元医師が伝承的な処方としてフェナグリークの種子を滋養強壮薬として男女問わず処方していることも知られている。フェナグリークは一般的にインドで栽培されているが、テストフェンに使用されているフェナグリークは、インドの特定の土壌で水分と大気の良い環境で栽培されている為、その種子に含まれる有効成分に違いがあることが分かった。

### 究極のテストステロンブースター

テストフェンに含まれるフェナグリーク配糖体は、テストステロンのレベルをサポートし、強力に働く。また、個々の筋肉の大きさや強さ、パフォーマンスにおいて、即効かつ顕著に強化する、安全なテストステロン活性素材となっているテストフェンは、世界アンチ・ドーピング機関の

規定に基づき、禁止された薬物を一切含んでいないことを証明された素材。アスリートは、負担のかかる運動によってホルモンバランスが崩れることがある。その状況下でテストフェンは、スポーツ集団(サッカー選手、持久走ランナーやラグビー選手など)のホルモンレベルを調整する作用がある。また、テストフェンは男性的的パフォーマンスを最大限にサポートする手段としても確認されている。

### テストフェンの有用性について

厳しいトレーニングやストレス、食事制限や睡眠不足はアスリートやボディビルダー、頻りにエアロビクスをする選手のカラダにある自然のホルモンバランスを崩す可能性があり、ハードな練習や肉改造は、トレーニングの成果を大きく落とすこともある。それは、タンパク質合成や筋肉の発達、代謝にホルモンバランスが大きく関与しているためだ。

テストフェンには、体内でテストステロンの産生能力を高める働きがあり、テストフェンに規格されているフェナグリーク配糖体が、最初に副腎皮質を刺激することで、視床下部を活性化させ、下垂体で副腎皮質刺激放出ホルモン(CRH)の自然産生を高める。副腎皮質刺激放出

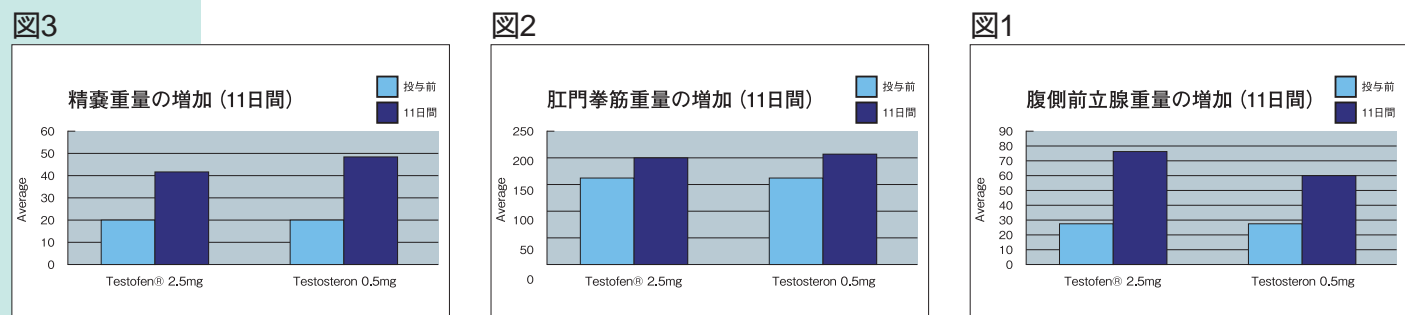
ホルモン(CRH)が高まることで副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)の産生を増加させる。

副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)は、テストステロンの前駆体であるアンドロゲン合成を高め、自然にテストステロンを増やすことができるため、テストフェンを摂取することにより、自然にテストステロン増進剤として機能し、天然のテストステロンブースターの役割を果たしている。これは、体のホルモンレベルを高め、重大な健康リスクがある合成ホルモン方法とは対照的である。

### テストフェンによるタンパク質同化作用の増加

マウスにテストフェンとホルモン剤のテストステロンをそれぞれ10日間投与し、タンパク質同化作用と男性ホルモンの活性を検証した。腹側前立腺と精嚢の重量は、男性ホルモン(アンドロゲン)作用の評価に対する指標として使用され、肛門拳筋の重量は、タンパク質同化作用を評価するために用いられている。

投与した11日後、マウスの腹側前立腺、肛門拳筋、精嚢の重量を測定。その結果、テストフェン投与したマウスの腹側前立腺、肛門拳筋、精嚢の重量がそれぞれ増加したことが確認された。また、テストフェン2.5mgがテストステロン0.5mgと同等



の作用を示すことも確認(図1、図2、図3)。すなわち、ホルモン剤のテストステロンと同等の効果が期待できることが分かった。

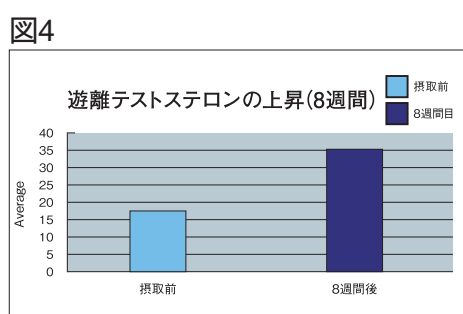
### テストフェンによる遊離テストステロンの上昇と筋肉量の増加

動物試験で有意性を確認後、ヒト臨床にて、テストフェンの安全性の検証、タンパク同化作用及び生理学的要因の効果を検証した。

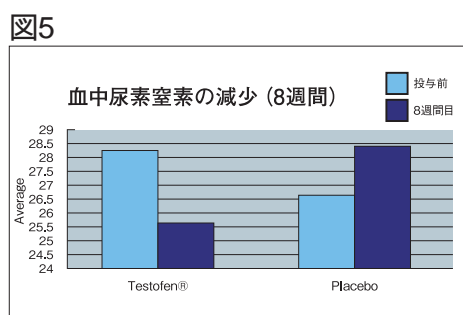
強度なウエイトトレーニングをした18〜35歳の60人の男性が朝食、夕食前に1回300mgを2回、テストフェンを8週間摂取。その結果、テストステロンを98%まで高めることが確認された(図4)

また、血中尿素窒素のレベルが大幅に減少した。これはタンパク質合成の顕著な増加を示唆している。この有意性は、太ももや腕の皮下脂肪の減少と除脂肪体重増加の裏づけとなり、筋肉量が増加していることが分かった(図5)

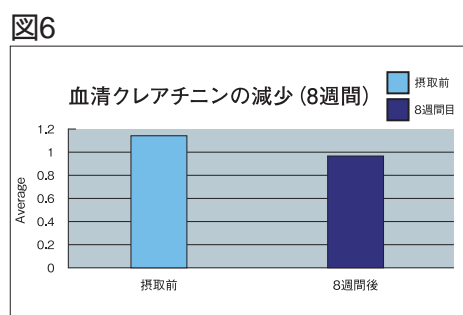
注目すべきは、血清クレアチニン(クレアチンが過剰に分泌されること)の減少について。通常ハードなトレーニングなどを行うことで、体内のクレアチンが過剰に分泌されることにより、血清クレアチニンは上昇する。しかしテストフェンを服用しながらハードなトレーニングを行った結果、血清クレアチニンが減少し



ていることが分かったのだ(図6)。これは、通常であれば、尿に排泄されるクレアチニンに変化してしまつた過剰分のクレアチンが、クレアチニン酸に変化して体内に蓄えていることを意味する。蓄えられたクレアチニン酸は、急激な運動により筋肉中のアデノシン三リン酸(ATP)が不足した際に、体内のアデノシン三リン酸(ADP)と結びついて「クレアチン+ATP」に変化するということだ。これは、筋肉細胞中のクレアチンの取り込みとクレアチニン酸が再循環されていることを意味する。クレアチンが再循環されていることで、効率よくハードなトレーニングを維持することができる



ことが分かったのだ。



テストフェンは、世界15ヶ国で使用されており、天然のテストステロンブースターとしてアスリートに愛用されている。テストステロン濃度

は20歳の半ばから低下し始め、これがエネルギー、パワー、回復力や代謝の低下および集中力ややる気の喪失などの主な原因となり、アスリートのピークパフォーマンスに大きく影響するといわれている。